

## NPO 法人海を越えるケアの手（略称：シーケア） 関連資料目次

1. 海を越えるケアの手のサービスのご案内 ----- 1 ページ
2. 海を越えるケアの手の紹介（シーケア作成資料） ----- 2～9 ページ
3. 事例紹介 ----- 10～13 ページ

シーケアのホームページはこちら（URL <https://www.seacare.or.jp/>）

# 海を越えるケアの手（シーケア） ご紹介



シーケアは  
仕事と介護の両立  
を支える介護相談窓口です。



メール



お電話



来所面談

- 仕事と介護を両立していくための情報提供やアドバイスをいたします。
- 相談は、社会福祉士などの有資格者の相談員が対応。
- 介護が始まる前からの相談でもOK！
- 漠然とした不安や困りごとの相談でもOK！
- 相談内容は守秘。

# シーケアの実績と概要

○ 設立 2002年(平成14年)

○ サービス内容

介護相談窓口



有料サービス

- ・ 家族代行サービス
- ・ 見守り訪問サービス

介護セミナー

○ 年間実績

<2019年度>

- ◆ 相談受付 : 498件
- ◆ セミナー等情報発信開催 : 46回

<2023年度>

- ◆ 相談受付 : 405件
- ◆ セミナー等情報発信開催 : 53回

# ご相談事例

## 介護が始まる前

- 遠距離で独居、今後が心配。  
どのような準備したらよいのだろうか？
- 認知症のような症状が出てきた・・・
- 将来介護費用はどのくらいかかるのだろうか・・・
- 介護保険サービスの手続きや制度がわからない。

# ご相談事例

## 介護中

- 転勤辞令！ 介護する人がいない・・・
- 親が緊急入院したが麻痺が残ると言われた。  
退院後にどうしたらいいのだろうか・・・
- 認知症の介護に疲れて鬱になりそう・・・
- 介護施設の探し方が分からない。

# ご相談者の感想

- 漠然と将来の不安を抱えていたが、介護の制度やしきみ、対応のポイントなどがわかり介護のイメージがついた。
- ちょっとした疑問や不安も直接相談できて、今すべきこと、準備しておくことなど整理できた。
- 介護のことがわかっている人と話せて気が楽になった。
- 親の状態が変わって、悩みや心配も変わったがその都度、何度でも相談できる安心感が助かった。

# 有料サービス

**家族代行サービス：** 介護サービスでは対応できない、手続きや病院・施設との打ち合わせなどを家族に代わり行います。

**見守り訪問サービス：** 家族が遠方で帰省できないなど事情がある場合に、定期的に親御さん宅を訪問し、様子をレポートにてご報告いたします。

※サービスは全国の登録専門職（有資格者）が対応します。

※緊急時の対応をするサービスではございません。

## <料金>

- ・ 半日業務（3時間程度）  
15,000円（税抜）
- ・ 一日業務（5時間程度）  
25,000円（税抜）

どうしても家族が対応できない、  
困った・・・ という時は、  
まずは一度ご相談ください  
(相談は無料)



# ご相談・お問合せ先



特定非営利活動法人

海を越えるケアの手

(通称：シーケア)

メール



[mail@seacare.or.jp](mailto:mail@seacare.or.jp)

電話



03-3249-7231

〒103-0025

来所



東京都中央区日本橋茅場町2-7-3

イースト・インタービル10階

URL

<https://www.seacare.or.jp>

電話・来所での受付時間 10:00~16:00

## 活用事例① 呼び寄せ不可能な母親の介護プランの相談と介護保険申請を支援してほしい

### 1.状況

Aさんの郷里は中部N市にあり、80歳のお母様が実家にて一人での生活を送っている。以前より母親の日常生活の世話（買い物・通院等の車の運転、自宅周辺の手入れ等々日常必要作業）をしてきている人が側にいるが、この人も高齢になり将来ともに頼ることは不可能となりつつある。

本人及び配偶者が月に一度位の頻度で、自宅に見守り訪問がてら帰省しており、折に触れて母親を東京に呼び寄せることを提案するも、母親本人の気持ちは自宅以外での生活は全く考えておらず、独居の状態を続けることに大変不安を感じている。

### 2.依頼内容

母親の東京への呼び寄せは不可能なので、当面の介護プランおよび将来的なプランの相談と、とりあえず介護保険の申請等の手続きをしたいので併せて支援してほしい。

### 3.シーケアの対応

対象者在住地域の担当専門職を選定し、ご本人との二度の面接を実施（ご家族の同席立会いあり）。つぶさにクライアントの現状を把握し、まずは総合的な支援プランの作成を行い、支援プランの具体化を支援。

主な内容としては、介護保険の申請支援のために地域包括支援センターへの同行・介護保険認定調査時の同席立会い等。

### 4.評価

介護保険の申請に関しては、依頼主は全く初めてのことで様子がわからず、担当専門職が地域包括支援センターへ同行することにより、スムーズに申請作業を終了した。

認定調査立会い時には、往々にして高齢者の方は本人が健常であろうとする意識・態度を誇示するため、調査官の評価を間違わせる結果となることが多いリスクを勘案し、専門職が同席し、対象者との二度の面接によって得られた感触を伝えることにより、適正な認定評価を得ることができた（単独の場合では介護保険対象者にならなかった可能性大であったが、結果として要支援1の評価を得ることができた）。

### 5.要した費用

支援プラン作成費用	35,000円＋税
地域包括支援センターへの同行（半日業務）	15,000円＋税
認定調査立会い同席（半日業務）	15,000円＋税
計	65,000円＋税

## 活用事例② 海外赴任中に両親の状況が急変したので施設選択アドバイスがほしい

### 1.状況

Bさんは働き盛りで将来を嘱望され欧州に転勤した。父親が脳梗塞の後遺症、母親は脳血栓の後遺症があり心配ではあったが当面の日常生活に支障がなかったため、両親を残して赴任した。その後両親の病状が著しく進行し、両親だけの生活は難しいという状況に陥った。早急に対応策が必要になったものの業務を放棄して帰国することもできない。

Bさんには姉が一人いるが、姉の方は嫁ぎ先の方での介護問題を抱え、とても実家の両親の世話をすることはできず、最悪の場合介護のために退職し郷里に帰ることを真剣に考えた。

### 2.依頼内容

縁戚も少なく、姉の状況からしても長男であるBさんは両親の世話・介護は避けて通れない。介護退職を選択すれば今後の生活そのものが成り立たない。とりあえず両親が安心して日常生活を送れるための施設選択のアドバイスをして欲しい。

### 3.シーケアの対応

両親の居住地の担当専門職が、専門家の目で諸施設を調査。入居条件・費用その他をケアマネジャーと相談しながら、夫婦二人で同居できる有料老人ホームを選択した。

Bさんは業務が多忙で帰国できないため、シーケアが入居手続きの全てを代行。また、Bさんが安心できるように定期的な見守り訪問を提案、安否確認と日常生活の状況を報告することにした。

### 4.評価

老人施設は種類も多く、初めての人では全くわからない。遠隔地で絶望的になっていたBさんだったが、最悪の介護退職をしなくて済んだ。シーケアの定期見守り訪問レポートで両親の状況がわかり安心できること。そのために一時帰国しなくても良く、駐在期間満了まで安心して業務に精励できることになった。将来の生活設計を崩さずに乗り越えられたことに大変満足し、帰国後も遠距離に住まいする両親の世話・介護に関する相談をシーケアにしたいという希望を強くもっている。

### 5.要した費用

両親居住地の施設探し（一日業務）	25,000円＋税
施設への入所手続き（半日業務）	15,000円＋税
計	40,000円＋税
定期見守り訪問（半日業務、1回あたり）	15,000円＋税

## 活用事例③ 海外転勤辞令が出たため、母親に関してしていた対応を代行してほしい

### 1.状況

海外転勤辞令の出たCさん。近郊の郷里に母親が一人住居。その母親は若い時に患った脳梗塞の影響で、障害者認定を受ける状況であり、その他にも高血圧・糖尿病等々の病状を抱えながら、現在は介護施設（老健）に入居中。弟が一人いるが、弟夫婦は共働きで経済的余裕もなく、金銭面の負担をはじめとして、施設とのやりとり、年金その他の諸手続き、病院への通院代行も有給休暇や週末を利用してCさんが一人で対応していた。

### 2.依頼内容

海外に赴任後Cさんが対応していた全てを代行して欲しい。ただし、近郊の郷里と言っても首都圏からはいささか遠隔地に介護施設があるため、交通費等の費用負担がかさむようであれば、他の手段もアドバイスしてほしいとの要請があった。

### 3.シーケアの対応

海外赴任時の緊急連絡先および施設側とのやり取りの窓口として、シーケアを登録してもらい、また、病状の進捗具合によっては主治医との直接のやり取りも必要となるため、シーケアに委任状を提出してもらって、Cさん不在時の全面的代行窓口を設定。

病院等への通院に関しては、施設の職員による通院同行をシーケアより施設側に直接交渉して依頼し、日常生活に必要な諸手配（洗濯物、身の回り品の手配等々）は、ヘルパーを手配することで対応、シーケア自身としては発生する費用の問題もあるため、定期的な担当専門職による見守り訪問は、最小限度（1／半年程度）の頻度で実施することとした。

### 4.評価

海外駐在期間中大きな出来事があり、施設入所中の母親が糖尿病による病状悪化のため、緊急手術を要する事態にいたったものの、時差の関係・慣れの問題等もあり施設側より直接海外のCさんに連絡がつかず、家族としては弟夫婦もいるが、やはり共働きのために緊急連絡がつかず、代行窓口であるシーケアが全ての連絡業務の仲介を行うことになった。委任状を受領している立場より、緊急手術の可否に関してもシーケアにて判断を行い、生命の危機は避けられた。

その他、所在地役所等よりの連絡業務も全て一時的にシーケアが受け皿として代行し、Cさんにとっては、あたかも内地に在住時と同等の対応が可能になっていることから、駐在期間満了まで安心して業務に精励できると、利用者として大変高い評価をされている。

### 5.要した費用

緊急時代行業務（一日業務） 25,000円＋税 + 交通費実費（約10,000円／1回）  
見守り訪問（半日業務、1回あたり） 15,000円＋税（半年に1回）

## 活用事例④ 父が入院中、妻が精神的に不安定な時に海外赴任辞令、行けるか相談したい

### 1.状況

Dさんの一人暮らしの父親（75歳）は脳腫瘍の手術中による後遺症で意識障害、右側マヒ、言語障害が残り、重篤な状態で回復の見込みがない。現在医療療養病棟に入院中にDさんに海外赴任の辞令。

### 2.依頼内容

重篤な状況の父親を残して赴任することは心苦しい。また妻も精神的に不安定なので、一人にしておけない。このような状況で赴任できるかどうか相談したい。

### 3.シーケアの対応

担当専門職（看護師）による定期的な見守りによる父親の体調の変化と、必要に応じて医師、看護師との面談結果の訪問レポートを提出、入院費の月々の支払、および緊急時のDさんの代行等ができるので、夫婦帯同による赴任を薦めた。

現在赴任してから6ヶ月になるが、月2回の訪問レポート、月々の入院費の支払い等、問題なく行っている。またその間、回復の見込みがないのに過剰医療がされている可能性があるとの専門職（看護師）のアドバイスがあり、Dさんが帰国の時に父親の終末期の治療（尊厳死宣言書）についての書類を病院に提出させ、病院も合意をしている。

### 4.評価

Dさんからは、妻帯同で赴任でき、妻も精神的に安定し喜んでいる。また看護師のアドバイスもあり、父親が苦痛を伴う過剰治療もなくなり、安定して状態が続いているので感謝しているとの評価を頂いている。

### 5.要した費用

見守り訪問（半日業務、1回あたり）	15,000円＋税（隔週）
帰国時の相談および尊厳死宣言書の作成（事務所で打ち合わせ）	無料